

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]

※（ ）内の％表示はいずれも（R6→R7）をあらわす

[回収率]

[生徒 (63.4%→61.0%)] [保護者 (61.5%→40.7%)] [教員 (100%→100%)]

保護者への実施については、三者懇談時の回答や重要書類等と同時配付・同時回収するなど粘り強く取り組んだが、事情により面談が行えなかったご家庭から回収する事が出来なかった。生徒・保護者ともに今後更なる回収率の向上をめざす。

【学習指導等】

・生徒「わかりやすい授業が多い」(86.4%→90.0%)

・保護者「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」(67.9→69.7%)

・教員「指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている」(100%→95.7%)

教員の工夫や環境整備を通じて「わかりやすい授業」が大きく前進した。しかしながら、教員の「工夫・改善を行っている」が減少しているのは残念である。教員への啓発を行っていくとともに、「わかりやすい授業」を更に推進していく。

【生徒指導等】

・生徒「学校に行くのが楽しい」(76.3%→80.0%)、「先生は生徒のことをよく見て対応してくれる」

(91.5%→90.0%)、「先生の指導には納得できる」(89.8%→88.0%)、「人権の大切さについて学ぶ機

会は多い」(89.8%→92.0%)、「社会人になったときに必要になってくることについて学ぶ機会が多い」

(86.4%→90.0%)

・保護者「学校の生徒指導の方針に共感できる」(90.7%→90.9%)、「学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」(90.9%→93.9%)、「学校は生徒に生き方を考えさせ豊かな心を持った生徒を育てようとしている」(87.3%→90.9%)、「学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」(91.1%→93.9%)、「学校は生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている」(89.3%→90.9%)

・教員「生徒指導において、家庭との連携ができています」(82.6%→78.3%)

保護者との連携において日々担任を中心に情報共有を行っている。分掌等と家庭との連携の重要性を再認識し、保護者に必要な情報が適切に共有されるように取り組んでいく。

【進路指導等】

・生徒「将来の進路や生き方について考える機会がある」(84.7%→90.0%)、「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」(86.4%→86.0%)

・保護者「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」(97.5%→98.2%)

・教員「生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう系統的な進路指導ができている」(69.6%→73.9%)、「生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるようきめ細かい指導を行っている」(78.3%→82.6%)

令和4年度当初からの課題であった入学から卒業までを見据えた計画的な進路指導が行えるようになってきた。進路指導部に加え生徒支援委員会やSSW、外部機関等との連携が充実してきたことが要因の一つと考える。

【学校運営】

・学校教育自己診断（教員）の学校運営に係る肯定率（80.2%→79.8%）

教員の世代間をこえたコミュニケーションを構築することで、教員一人ひとりが孤立することなく学校運営に積極的に参加できるよう、組織的な対応ができる雰囲気づくりを行い、准校長のリーダーシップのもと誰もがやりがいを感じられる学校運営に努める。

【まとめ】

次年度以降は「わかりやすい授業」の工夫・改善はもとより、生徒の規範意識の向上が課題となる。また、生徒に寄り添った教育を中心として生徒理解と生徒支援に今まで以上に取り組んでいく。